

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 「存廃問題」懸案となる

一二月四日委員会でも右の決定を確認し、本年度予算案は従来通り八万円とするが、その執行には緊縮方針をとること、予算案を至急作成して高野・大原両者会談でこれを討議することを決定した。高野氏は長谷川、河上、大内の諸氏に出状して存廃問題の現状を告げ、各委員とも慎重に意見の交換を行いつつ、一方大原氏との会談の実現を配慮した。しかし会談にいたらず年末に及ぶうち、高野氏は上京中胆石病を発して倒れ、存廃問題の前途なお不安のままこの年は暮れた。このころ、高野氏は無産政党諸派合同による新党・日本大衆党の中央委員長に出馬を要請されつつあり、河上丈太郎、河野密、浅沼稻次郎氏ら労働運動家、政治家の来訪しきりであったが、高野氏は研究所の現状と健康を理由に、すべてこれを固辞したのであった\*。

\*高野氏の無産政党党首出馬問題はすでに一九二七年末より起り、当時は日本労農党の党首あるいは顧問就任を棚橋小虎、河上丈太郎、麻生久、三輪寿壮、河野密氏らにより懇請され、その後一九二八年末の日労党その他数政党合同に際してもその党首に出馬を要請されたが、前記の事情で実現しなかった。つぎに高野氏は、本年一月一四日に発会した大阪自由通商協会には発起人として、また中心的な幹部として会の活動を指導している。この年の四月大阪に所員(助手)として赴任した笠信太郎氏は高野氏の指導下に通商協会の事業に参加した。この外、高野氏は中央統計委員としても活動した。

研究所の出版物は、年鑑のほか、河上氏の訳稿が完成して『資本論首章及附録』として刊行され、パンフレットは第二六号より二八号まで三冊、いずれも『剰余価値学説史』の翻訳である。

人事移動としては、四月一七日笠信太郎氏が助手として東京より赴任して来たこと、および年末北沢新次郎氏の嘱託解職の外、変動はなかった。資料買入れでは、日本農民組合、全日本農民組合の合同を機会にその関係資料を、同じく日労党関係の資料一括買入れがきまった。

なお本年末フレダ・アトレー女史(Japan's Feet of Clayの著者)、アルベール・トーマ氏(国際労働局々長)らが研究所を訪れ参観した。

一九二九年 昭和四年 年が明けると早々、昨年来の重要懸案を協議するため委員総会が大原において招集された(一月八日、出席者久留間、森戸、権田、櫛田、大林、大内、細川、高野氏)。当日決定された主要事項は、――

- (一) 高野所長は大原氏との交渉行詰りのため、内部的には所長辞任の決意であるが、あと一回交渉するまでは辞任しないこと。
- (二) 大原氏との直接交渉は避け、第三者に仲裁を依頼すること。
- (三) 所の解散は絶対に回避すること。
- (四) 産労への補助は月一〇円、社会経済研究所へは五円とする。
- (五) 所の事業は従来通りとし、雑誌は四月に発行すること。
- (六) 高野氏の日本大衆党入党は異議なし。(党首就任は委員の見解区々のため決定せず)。

一月一日高野氏は上京したが、その日の夕刊紙上に「高野氏大原社会問題研究所を辞し、日本大衆党々首就任のため上京す」という報道が現われた。また三輪、河野氏らより党首就任を懇請されたが、研究所の現状よりして出馬は困難であると答え固辞した。同夜高野氏は再度発病し(不

定型胆石症)、一八日ようやく大阪に帰った。

一月下旬には大原氏より例年通り研究所へ寄附金を送っては来たが、昨年来の懸案は前途に何らの解決の曙光も見ないうちに高野所長は病臥し、この年も研究所にとって多難の年となった。一般の社会情勢も経済恐慌の深化とともにはげしく動揺し、労働運動はますます活発になりつつあった。治安維持法改正事後承諾案が議会を通過した三月五日、これに反対した代議士山本宣治氏が一右翼青年に刺殺された。その京都の葬儀には労働学校代表として森戸氏が弔辞を読んだ。また四月一六日には再び日本共産党全国一斉検挙(四・一六事件)が起り、その余波をうけて東京の同人社は官憲の搜索を受け、たまたま同書店を訪れた所員の後藤貞治氏は拘引されて七日間の留置処分をうけるという小事故も起きた。言論、出版に関する官憲の取締りも一そう強化され、研究所の注文した外国出版物が郵送の途中で押収されるという事件も起った。

本年度の出版物は『日本労働年鑑』、『日本社会主義文献』第一集、雑誌第六巻第一号、パンフレット第二九号森戸訳『剰余価値学説史』等である。また内藤氏の作成した『邦文マルクス・エンゲルス著作集目録』とマルクス書簡の写真複製をモスクワのマルクス・エンゲルス研究所に寄贈した。

八月一七日年鑑編集の手助けをしてきた河野密氏に代って荘原達氏がこれに当ることになり、また寺尾浄人氏も臨時嘱託として年鑑資料の仕事を手伝うことになった(六月より)。萩原久興氏は一〇月退職した。前所員の丸岡重堯氏は三月三〇日死亡した。ちなみに、高野氏はこの年、国際労働協会(一九二五年発会、高野氏はその常務理事長)を改組して成立した社会立法協会の理事となり、また神戸労働学校の経営委員長に就任し、さらに国際統計協会の正会員になった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史  
発行 1970年11月  
編・発行法政大学大原社会問題研究所

---

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

---

研究活動・刊行物 [OISR.ORG](http://oisr.org)全文検索

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---